

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

①学びの習慣の確立と学力の向上

生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。

②特別活動と部活動の充実

逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。

③グローバル教育の推進

進展するグローバル社会の中で、自己の在り方生き方を見つめ、世界に通用する国際感覚や教養、スキルを身につけ、社会に貢献する志の涵養を目指し、グローバル教育を推進する。

④英語運用力の向上と国際交流活動の推進

上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評 価

項目	昨年度の課題	本年度の目標		目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策
1 学 び の 習 慣 の 確 立 と 学 力 の 向 上	・家庭学習時間が少ない背景の一つとして、学習動機が働いていないことが考えられる。学習の動機づけを促すために、プロパーとして常に授業改善を図っていく。具体的には、学習内容はもとより教授方法を磨くことが肝要である。研究授業を基盤に据えて、教育遺産の伝達を図るとともに教授法の検討を行う必要がある。 ・1年生は緩やかな右肩上がりで成績が向上している。2年次のいわゆる「中だるみ」期を如何にモチベーションをまっ	1 年	①家庭学習90時間/月 ②週明けテストの合格率100% ③国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ④図書貸出数1000冊/年	①②③能率手帳スコアの効果的な活用方法とスマホ・携帯の適切な使用方法の指導。 ②学年団と教科(国・英)担当が取組について共通理解し、連携を図る。 ④各教科と連携して授業関連書籍を紹介してもらう。	①平均家庭学習時間 6月平常時 71.2分/日(27年度:108分/日) 3h以上 4名、2h以上 34名、30m未満 33名 7月期末試験時 155.3分/日 3h以上 89名、2h以上 188名、30m未満 4名 ②各教科の合格率(2回実施) 国語 75.5% 英語 92.4% ③7月記述模試結果 3教科総合平均点偏差値 48.0(27年度:49.1) 平均点偏差値60以上 5名(27年度12名) 平均点偏差値50以上 87名(27年度112名) 国語 49.8 数学 47.8 英語 47.8 ④368冊(27年度:489冊)	①平常時の目標達成率はわずか1.4%である。家庭学習習慣が確立している生徒は12.6%に過ぎない。 ③過去5か年間で最も低い結果となっている。また、平均点偏差値50以上の生徒の割合は30.1%となっており、例年の4割を大きく下回っている。 ④前年度比75.2%となっている。	①②③具体的な進路目標を立てさせ、目標達成のために必要となる学習時間と方法を考えさせ、実行させる。 ・課題に丁寧に取り組み、改善が図られるよう根気強く指導する。 ④図書委員の広報活動を充実させるとともに、SGHの探究活動と連動させる。
		2 年	①家庭学習100時間/月 ②国・数・英3教科総合の平均点偏差値50.0以上 各教科の平均点偏差値53.0以上 ③図書貸出数1000冊/年 ④読書感想文コンクール入賞10名以上	①・②スコラ手帳の活用の充実とスマホ・携帯指導。家庭学習時間調査の実施と結果にもとづく個別指導の実施。英・数・国の取り組みに関して学年団で共通認識を持ち、協力し合う。 ②教科担当による学習指導の実施 ③・④G探Ⅱ、その他教科と連携して「読む」、「書く」の習慣化を図る。	①平均家庭学習時間 6月平常時 71.8分/日(27年度:84分/日) 3.5h以上 1名、2h以上 37名、30m未満 39名 全くしていない 6名 7月期末試験時 181.2分/日 3.5h以上 104名、2h以上 212名、30m未満 6名 全くしていない 1名 ②7月記述模試結果 3教科総合平均点偏差値 49.9(27年度:50.3) 平均点偏差値60以上 18名(前回 24名) 平均点偏差値50以上 130名(前回 141名) 国語 52.4 数学 48.9 英語 49.2 ③157冊(27年度:264冊)	①目標達成者は1名のみである。家庭学習習慣が身に付いている生徒は13.4%に過ぎない。他方、「全くしていない」生徒が6名となっている。 ②数学と英語に課題が見られる。数学の平均点偏差値は過去5年間で最も低い。英語については、平均点偏差値43未満の生徒の割合が26.6%となっており、過去4年間で最も多い。 ③前年度比59.5%となっている。	①②LHや学年通信を通して、進路や受験に対する意識を高める。 ・隙間時間の有効活用やスマホの使用について、繰り返し指導する。 ・教科の課題に対する取組について、徹底した指導を行う。 ②内容の精選と効率化を図るとともに、計画的に演習課題を提示する。 ③グローバル探究Ⅱで、文献活用についての指導を行う。

①“プラス30分”を周知徹底し、進捗管理を図る。
②学習の質を高めるために、毎日スコラ手帳に内省(振り返り)を記述させる。
③「読書習慣＝思考習慣」を周知徹底する。

・、インコンを以て乗り切るかといった学習指導が必要になる。 ・偏差値と実際の学力とのギャップが認められる生徒もいる。「なんとなく正解」から「根拠のある正解」へと指導をする必要がある。	3年	国公立大学合格者100名以上	①学年団のまとまり。 ②早期の小論対策。 ③主要教科の強化。	【6月マーク模試結果】 5－8文系平均点偏差値 46.0 5－7理系平均点偏差値 45.1 国数英総合平均点偏差値 46.3 平均点偏差値60.0以上 文系7名 平均点偏差値50.0以上 文系52名、理系12名 【7月記述模試結果】 5－8文系平均点偏差値 47.5 5－7理系平均点偏差値 44.7 国数英総合平均点偏差値 47.0 平均点偏差値60.0以上 文系9名 平均点偏差値50.0以上 文系68名、理系9名	理系において、平均点偏差値60を超える生徒が見られない。また、平均点偏差値50以上の生徒は、6月マークで12名、7月記述で9名であり、過去5年間で最も少ない。	・基礎事項の復習・定着を継続しながら、演習形式で数多くの問題を解かせる。 ・生徒個々の課題を明確にさせ、改善に努めさせる。
--	----	----------------	--------------------------------------	--	---	--

項目	昨年度の課題	本年度の目標		目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策
2	特別活動と部活動の充実	1年	①皆勤 ②部活動加入率90%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④学校適応100% ⑤鍊歩会完歩率95%	①食事や睡眠、体調管理、学習と部活動との両立などに留意しながら、規則正しい生活を送る。 ④ホーム担任と授業・部活動担当、生徒サポート部、家庭との連携により、 ②③④⑤学校行事、集会を通して学年団としての結束を高める。	①231名(82.2%) ②92.2%(文化系42.0%、体育系50.2%) ④100%	①中間試験終了時から22名減少している。	①規則正しい生活と体調管理に努めさせる。
		2年	①皆勤 ②2年間の部活動継続率80%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④鍊歩会完歩率95%	・学校行事、学年集会、通信等での啓発 ・授業やLHを活用してのコミュニケーション能力の向上	①178名(64.4%) ②78.3%	①遅刻をする生徒の固定化が見られる。	①欠席が多くなった生徒は、早めに生徒サポート部やカウンセラー、保健室と情報の共有を図る。遅刻者については、保護者面談での指導を行っているので、2学期当初の遅刻状況に注意し、生活習慣の確立を指導していく。
		3年	①皆勤 ②部活動成績上位入賞	学年集会、通信等で奨励する。	①194名(70.0%) ②全国大会(団体1、個人5名) 四国大会(団体6、個人21名)	①皆勤生徒をより多く維持する。	①健康管理を促していく。
3	グローバル教育の推進	1年	①グローバル探究Ⅰへの積極的・協力的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合30%以上 ③政治的教養として、社会の課題を見出し、協働的に追究し解決する態度を養う。	①②③グローバル探究での取り組みを通して、意識の高揚を図る。 ②家庭クラブ活動において、ボランティア活動を計画し、積極的に参加させる。 ②③地域のボランティア活動などに積極的に参加する。	①グローバル探究Ⅰでは、講師を招聘して高知県の社会課題や成功要因分析を行った。また、探究サイクルを理解させるために高知県の課題解決策を考えさせた。 ②校門前の植栽では、家庭クラブ委員以外で15名の参加があった。 ・「「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」に係る感想文より、自分たちでできる社会貢献について前向きに取り組もうとする意志が確認された。	①グループで作業する際、役割分担が固定化される傾向がある。 ・外部講師招聘について検証が必要である。	①振り返りシートで役割分担が確認できるようにして固定化を防ぐ。 ②PTAに協力いただいたり、あけぼの祭を活用し、取り組みについて発信する。
		2年	①グローバル探究Ⅱへの能動的・積極的な参加 ②社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒の割合50%以上 ③政治的教養として、社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養う。	①グローバル教育部と連携し、生徒が能動的・積極的に参加できる環境を整備するとともに機会提供を行う。また、内容の充実を図る。 ②グローバル探究でのリサーチ活動に関する情報提供や校外で実施されるボランティア活動の情報提供を積極的に行い、参加を促す。 ③LHを活用したり、公民科と連携を図る。	①探究テーマに係る構想発表会を実施。また、実証的にテーマを探究させるため、夏季休業中にアクションプランを実施した。	①取組が消極的な生徒に対する指導が必要である。 ②夏休み以降に実施される外部での各種活動に自主的に参加する生徒を増やす。	①②情報提供とともに積極的な参加を勧める。 ③公民科と連携して、政治・経済等の授業で、国際的諸課題についてのアクティブラーニング(ディベート等)を実施する。
		3年	①社会貢献活動や自己研究に取り組む生徒の割合70%以上 ②政治的教養として、社会の課題を見出し、探究し解決する力を養う。	①ホームや学年を通じて、果たすべき義務と責任を自覚させる。 ②公民科と連携を取りながら、新聞等メディアを見る習慣を確立させる。	①学校生活アンケート 「人の役に立つ仕事に就きたい」肯定的回答 94.5% 「自分は役に立たない」否定的回答 74.7%	卒業に向けて、社会人としての意識を確立させる。	面接をはじめ、各種の指導を通してあるべき状態に近づける。

項目	昨年度の課題	本年度の目標		目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策
4 英語運用力の向上と国際交流活動の推進	・1・2年生全員が受検する体制にならない限り、目標達成は厳しいと考えられる。しかしながら、そうなる指導者の手が足りないという問題が生じる。如何に自律的に臨む生徒を育成するか、学校全体で考える必要がある。 ・この2年間、英語ディベート全国大会への出場が途絶えている。次年度は、県内唯一の英語科の復権を図りたい。 ・授業において、留学生が発表したり意見表明する機会を設けたい。	1年	①英検準2級 普通科50%以上取得 英語科100%取得 英検2級 英語科20%以上取得 ②各種コンテスト入賞 ③将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合30%以上	①授業でのプロジェクト活動により、生徒の英語使用量を増やし、実用的な英語力を身につける姿勢を育てる。 ・2次試験対策として、同形式のスピーキングテストを実施する。 ・生徒への情報の周知徹底と受験奨励を強化する。 ②都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報提供や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ③実践的英語力を身につけるため、多読・多聴・多話・多書を用いてバランスよく4技能の伸長を図る。	①【2級】英語科 1名受験し合格者なし 【準2級】普通科 2名受験し合格者なし	①英検受験者が少ない。	①第2回の英検受験について、模擬試験や定期試験の結果を参考に、個別に声掛けをするとともに、授業の中でも受験を奨励する。
		2年	①英検準2級 普通科80%以上取得 英検2級 普通科10%以上取得 英語科50%以上取得 ②英語ディベート全国大会出場 ③将来にわたって国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合50%以上	①英検合格等の目的達成を強く意識させる。 ・教科書を活用して2次対策を行い、合格につながる授業展開をする。 ②都道府県又は全国規模で実施されるスピーチコンテストやディベート大会等の情報提供や参加奨励、開催時期に合わせた適切な指導を行う。 ・授業との関連を持たせ、英語スピーチ・ディベートの技術力を向上させる。 ③設定された「食」に関するテーマに基づき、英語での探究授業、プレゼンテーションを行う。	①【準1級】英語科 2名受験し合格者なし 【2級】普通科 1名受験し合格(取得率0.4%) 英語科 7名受験し1名合格(取得率20.0%) 【準2級】普通科 69名受験し27名合格(取得率39.7%) 英語科 2名受験し2名合格(取得率100%) ③「食」に関する探究授業のプレゼンテーションを3つのテーマ(食と宗教・信念／食と言語・文化／フェアトレード)について行った。	①本年度より英検を全員受験としているが、1学期は準2級の受験者数が思ったほど伸びなかった(昨年度より28名増)。受験代金をホーム費より徴収しなかったことも一因であると考えられる。また、受験することが目的となり、勉強しないまま受験する生徒が多い。 ③テーマが高度であるため、調べた内容を限られた授業時間の中で、英語で準備し発表するのに苦労している。	①英語教員のみでなく、ホームでも全員受験・合格を目標に地道に声掛けをしていく。準2級は通過点であり、最終ゴールは2級の取得が目標であることを学年全体で周知する。 ③各テーマの内容を理解するために、発表者はプレゼン内容についての語彙リストを作成し提示する。
		3年	英検2級 普通科20%以上取得 英語科100%取得 英検準1級 3名取得	・英検合格等の目的達成を強く意識させる。 ・生徒への情報の周知徹底と受験奨励を強化する。 ・センター試験との共通点を示し、センター試験の学習をすると同時に、英検に対応する英語力を養う。	①【準1級】普通科 1名受験し合格者なし 英語科 11名受験し2名合格(取得率5.0%) 【2級】普通科 34名受験し7名合格(取得率6.7%) 英語科 6名受験し5名合格(取得率79.5%) 【準2級】普通科34名受験し7名合格(取得率54.2%)	・英検受験者、合格者ともに少ない。 ・今年度よりライティングテストが導入されたことや観点別評価が採用されたことを受け、技能のバランスを考えた指導が必要である。	変更点等の周知を十分図ったうえで、大学入試との関連を示しながら、英検受験への積極的な呼び掛けと対策を指導する。
5 学習環境整備	・限られた予算の中で、優先事項を洗い出し適切に執行していく。 ・耐震工事が終了し、懸案であった南舎トイレの全面改修となった。次年度以降も、環境美化の維持に努めたい。 ・PDCAサイクルに基づき適切に執行していく。	①生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている ②安心・安全な教育環境が整っている ③防災用品の充実・管理		①効率的な予算執行 ②安全・安心な環境作り ③校内の巡回等による学習環境等の把握	①7月末に高性能印刷機を導入。 ②1学期は大きな工事はなく、2学期以降に備えているところである。 ③南舎の救助袋が更新された(8月)。	①印刷機のインク代等の節約。 ②新校舎建築に伴う先行建築主体工事の着工。 ・運動場の排水は修繕(土砂取り除き)を行ったが、まだ土砂は、若干外へ流れている。	①新印刷機の有効利用の促進を図るとともに、白黒でできるものはできるだけ白黒で印刷する等消耗品の節約を図る。 ②請負業者が決まったら、頻繁に連絡を取り合って、できるだけ多くの情報を教職員に提供する。 ・少なくとも、柵の清掃は毎年行うようにする。

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	中間期評価	課題	対策
6 関係機関との連携・協力	・「西高だより」をはじめ、「学年通信」、「SGH通信」とも高い評価が得られている。次年度も、一層の充実改善を図りたい。 ・協力を惜しまないPTA役員とともに、より良いPTA総会の在り方を考えたい。 ・6月の中学校訪問に向けて、説明資料や配布資料の編集を行うが、機会があれば中学生のニーズを探索してみたい。	①情報発信の拡充 ②PTA総会への保護者参加率の向上 ③中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている	①「西高だより」を充実させる。 ・新しいHPを有効に活用する。 ・校門前の掲示板を活用する。 ・SGH通信を随時発行し、取組状況の広報に努める。 ②PTA総会参加率40%以上が得られるようPTA役員との連携を取っていく。 ③中高連絡会を開催し、中学校へ西高校の取り組みを説明する。 ・体験入学を開催して、中学生に西高校をよく知ってもらう。	①PTA広報部の積極的な取組により、保護者目線での情報発信ができている。 ②PTA総会等参加率58% ③中高連絡会では45校からの参加が得られた(昨年度は49校)。	①校門前掲示板に掲示する情報が、特定のクラブによるものに限定されている。 ・HPにSGH通信第1号以降をアップできていない。	①校門前掲示板の活用について、当番制の企画とする。 ・役割分担を明確にし、発行と同時にHPにアップする。
7 教育振興	・SGH事業が滞りなく進む体制を整えようと、生徒がよりよい探究成果を出すことができるよう条件整備を行う。さらに、大学の研究者と連携して評価の研究を行う。 ・IB教育については、推進チームを編成しカリキュラム開発を中心に進めていく。毎月、週休日を利用して小学生やその保護者等を啓発する研修会等を企画したい。	①SGH事業の進捗管理 ②IBコース設置に向けた研究	①G探Ⅰ・Ⅱの探究授業研究チームで内容検討を行う。実施後はその都度振り返りを行い、目標達成に向けて取り組む。 ②DPの下支えとなるMYPの教育課程について全教科領域のガイドブックを理解し、IBプログラムの導入に活かす。また、正しい理解のうえで新中高を選択していただけるよう、広報活動を行う。児童を対象としたワークショップは、IBOを招いた高知でのワークショップをその1回目とする。	①1・2年の学年団への周知会は放課後、定期的に行っている。昨年度のように授業研究チームの空き時間が設定できず、フルメンバーでの開催が難しい状況にある。 ②小中高各教科の学習指導要領を、IBの各教科の規則と照らし合わせ指導主事の助言を得ながらカリキュラムを検討している。 ・6月7月に西高校主催の体験授業を実施。述べ92名の児童の申込みがあった。 ・8月15日の公式ワークショップでは88組の親子と132名の参観があった。うち、教員の参加は42名(県外8名)であった。これらの結果より、IBに対する関心の高さが窺われる。	①探究授業研究チームメンバーの空き時間が一致せず、フルメンバーでの開催が難しい状況にある。 ②東京派遣の4名と、教育センター研究室と西高校のメンバーで情報の共有をスムーズにする必要がある。 ・保護者に対する説明機会の確保を図る必要がある。	①細かな決定事項については、管理職と学年主任が空いている時間を使用し、協議のうえ決定していく。 ②ネット上で、情報や資料、アイデアを共有できるシステムをつくり動き始めたところである。 ・児童の体験と保護者への説明の場をわけて開催する方向で検討。IBOの教育専門官を講師に招聘予定。

4 後半に向けて

(1)プロ教師として

表を見る限り、1・2年生とも平常時の家庭学習が不十分である。7月模試結果と照合すると、家庭学習時間の確保が喫緊の課題であることは明らかである。例年の学校評価において、家庭学習時間の少なさが課題に挙がっているが、現時点で改善されているとはいえない。さらに、1年生では、平常時の家庭学習時間が30分以下という生徒が33名、2年生は39名もいる。各教科から出される課題について、ほとんどできていないか他の生徒のものを丸写している実態が窺われる。未だに中学校時の生活習慣から脱却できていないのではないのか。個々の生徒が抱える諸事情を考慮したとしても、西高生になれていない生徒が1クラス分いる事実は看過できない。この生徒たちは、学ぶことの喜びを感じられず、学びに対する自信を失い、進路の目標を見いだせずにいるのではないのか。

このような実態を把握したうえで、指導に際し次の点に留意することを提案する。

- ①一人一人の生徒をよく見る。
②一人一人の生徒の学力を伸ばす。
③一人一人の生徒のモチベーションを高める。
④一人一人の生徒が授業に参加する。
⑤一人一人の生徒が確実に課題を提出する。

「一人一人の生徒を大切にする」

もちろん、これらは私たちにとって当たり前のことであり、これまでも実践してきたことである。実際、職員室では、朝早くからパンを片手に教材研究や課題点検をしている姿が見られる。昼にはカップ麺をすすりながら通信を書いている姿がある。放課後は、部活指導を終えて職員室が閉まるまで教材を練り上げている姿がある。土日も平常勤務と同じように過ごしている姿がある。しかしながら、教職の本質である「生徒を伸ばしてなんぼ」という主題をクリアーできていない現実がある。

生徒を劇的に変える打出の小槌は見当たらない。それならば、プロ教師としての覚悟と矜持を持って常に自己省察を重ねるしかない。理想の教室を追求して。

(2)号令について

教師が教師であるための最高の場は授業である。「教師は授業で勝負する」という言葉が世に知られて以降、多くの教師が授業に賭けてきた。より良い未来社会の建設に資するために、教材と勝負し、生徒の通俗性や弱さと勝負してきたのである。

勝負の合図は「起立(姿勢)・礼・(着席)」である。明治期に小学校が設置されて以来、大学を除き、学校では授業の初めと終わりに号令が掛けられている。この号令は柔道や剣道でも掛けられているが、同じ意味を持っていると考えられる。すなわち、いずまいを正して真摯に向き合う心の構えをつくるためであり、得られた学びをいずまいを正して精神的に総括するためである。

柔道や剣道に限らず、茶道や華道、書道などの日本の伝統的な技芸は型を忠実になぞることを重視している。型をひたすらなぞることによって、そのかたちを生み出した精神に到達するとされるからである。

単なる開始(終了)合図の「レイ」とするか、原義を捉えての「礼」とするかで、勝負の行方は異なってくるように思われる。授業の内容はもとより号令の在り方についても一考したい。

表1：1年生の学習状況

	H28	H27	H26	H25	H24
1日当りの家庭学習時間	71.2分	108分	99.0分	91.0分	101分
平均点偏差値(7月記述)	48.0	49.1	49.3	48.0	49.3
標準偏差	21.0	25.7	26.2	25.9	25.9
偏差値50以上生徒数	87	112	122	92	111

表2：2年生の学習状況

	H28	H27	H26	H25	H24
1日当りの家庭学習時間	71.8分	84.0分	92.0分	149分	85.0分
平均点偏差値(7月記述)	49.9	50.3	50.2	50.7	48.9
標準偏差	26.0	26.7	29.7	28.0	29.0
偏差値50以上生徒数	130	146	129	129	113